



東日本大震災での福島県の原因事故により、放射能汚染の問題が多方面に大きな影響をおよぼしています。とりわけエネルギー問題は、風力や地熱などの新たな電力確保に向けて大変重要な課題となっています。現状では、全国的に節電するしかありません。皆さんも協力し節電に心がけましょう。でも、今年は記録的な猛暑で熱中症も多発しています。無理せずにこの夏を元気に過ごしましょう。

吉野にもパークゴルフを！

吉野町には、吉野運動公園をはじめ様々なスポーツを楽しめる施設があります。ゲートボール場もそうです。最近ではグラウンドゴルフに興じられる方も増えました。そうした中、今回はパークゴルフに注目しました。

パークゴルフは、公園の緑の芝生と樹木や花がふれる中で、一本のクラブでラウンドする、一九八三（昭和五十八）年に北海道で生まれた、公園の有効利用からはじまったコミュニティ・スポーツです。その特徴と効果はいろいろありますが、

1つ目は、子供からお年寄りまでみんなが和気あいあいプレーを楽しめるということです。従来のゲートボールは、チームプレーなので、少人数ではできませんが、パークゴルフは老若男女や個人の体力などで差がつきにくく、孫と祖父母、親と子がいつでも手軽に一緒にプレーでき、三世交流、地域住民の自主的交流をもたらします。



2つ目は、小中学生をはじめとして、授業またはクラブ活動として広く採り入れることができます。教育効果もあり、また生涯学習として活用、年齢が高くなっても楽しむことができます。

3つ目は、適度な運動による健康増進効果です。またリハビリやストレスの解消になり、医療費削減等にも貢献し、障がいをもった方にもやさしく楽しく取り組むことができます。

4つ目は、ゴルフのような広大な土地を必要としません。コースは9ホールを単位とし、標準打数（パー）は、18ホール66とし、

1つのホールの距離は、最長でも百メートル以内です。できるだけあるがままの自然環境を有効利用するので、環境保全にも効果的であり、雑草の生い茂っているだけの土地が笑顔あふれる住民の集いの場となり、土地の有効利用という面からも注目されます。



このようにパークゴルフは、吉野町の高齢化社会、核家族、環境保全、医療費等課題解決の一つになるものだと考えられます。また、良いコースには全国から愛好家が集まる傾向があるようで、町民の健康増進はもとより、ビジターの増加も期待できそうです。もちろん、来町した愛好者を観光地に誘導するなど、地域活性の足掛かりにもなりそうです。

ちよひと教えて、「いっしょに」いっしょに

お答えしますーお調べしますー！

将来の大災害に備えて

問 地震などの災害の度に、地域の自主防災組織の大切さが報道されていますが、自主防災組織について教えてください。

答

大災害から学ぶもの

地震などの大きな災害が発生した時には、被害は広範囲に広がり、情報も混乱します。特に道路や橋梁等の交通網が被害を受けた時には、役場や広域消防組合などの迅速な対応が、難しくなります。この事は、平成7年の阪神淡路大震災や今回の東日本大震災でも明らかになっています。倒壊した家屋から救助された人たちの多くは、公的防災機関ではなく家族や近隣の人達により助けられています。

自主防災組織の大切さ

このように『自分たちの地域は、自分たちで守ろう。』という連帯感を持って自主的に結成された組織を自主防災組織と言い、県及び市町村はその育成と充実に努めなければなりません。吉野町では、現在ほとんどの地域（99%）で組織されています。今後は、100%の結成と、あらゆる機会を通して自主防災組織が効果的に活動することができるようサポートする必要があります。

日頃から防災活動を

また、皆さん自らが平常時にできる防災活動としては、下の表のような内容があります。



今後、地球温暖化等の異常気象による大型台風の発生や、東海、東南海、南海等の海溝型地震が非常に高い確率で発生する事が予測されています。防災対策の基本は、『まず住民一人ひとりが自分の命は自分で守る』自自助』である事をしっかりと理解した上で『地域の安全はみんなで守る』共助』につなげていくことが大切です。特に高齢化と核家族化が進む吉野町では、高齢者の方が災害が発生した時に犠牲とならないよう、今後、災害時における要支援者対策が重要になってきます。

この要支援者対策でも、地域の事情に精通し、地域に居住している特性を持つ自主防災組織の役割は極めて大きく、行政と協力し取り組むことにより、被害を最小限にすることができると思います。

【 平常時の活動 】

防災知識の普及啓発	自主防災組織の役割と活動への理解 講演会や研修会への参加
災害に備える活動	家屋の耐震診断と補強・家具などの転倒防止・食料、飲料水、医薬品及びラジオ懐中電灯等備蓄・災害等要支援者との交流
災害時の活動の取得	地域の特性に応じた消火訓練、避難訓練の実施
被害を防ぐ為の活動	地域の危険箇所の把握・避難路と避難場所の把握

